

# 令和3年度 全国学力・学習状況調査結果

文部科学省が実施した、令和3年度の「全国学力・学習状況調査」について、芦屋市全体の結果を取りまとめましたので、お知らせします。

## 1 芦屋市全体の結果について

今年度の教科に関しての調査は、国語、算数・数学、の2教科で実施されました。本市の平均は、いずれの教科でも小中学校ともに全国平均を上回り、市教育委員会では、「**評価できる結果**」と考えています。

質問紙調査結果では、本市児童生徒の学習習慣、生活習慣等に関して評価できる点が多いものの、学習への意欲や他者とのかかわりについて課題も読み取れることから、今後も積極的に改善に取り組めます。

## 2 調査の概要

### (1) 調査の目的

- ①義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ②学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善などに役立てる。
- ③そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### (2) 調査の対象学年及び実施状況

対象学年	在籍数 (人)	受検者数 (人)
小学校6年生	782	751
中学校3年生	509	457
合計	1,291	1,208

### (3) 調査実施日 令和3年5月27日(木)

### (4) 調査の内容

#### ① 教科に関する調査(国語、算数・数学)

- ア ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容  
・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- イ ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力  
・様々な課題解決のための構想を立て、実践し評価・改善する力等

※調査問題では、上記アとイを一体的に問うこととする。

出題形式は、各教科で記述式の問題を一定割合で導入する。

#### ② 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

### 3 調査結果の公表について

#### (1) 国・県の基本方針

本調査により測定できるのは学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえ、結果の公表にあたっては、序列化や過度な競争につながらないように十分配慮することとしています。

#### (2) 本市の基本方針

調査結果を十分に把握・検討し、今後の教育施策や教育実践の改善に反映していくことが重要であるとの基本的な考えのもと、説明責任を果たすためにも市全体としての結果を示すこととしています。

### 4 本市の各教科の調査結果の概要

#### (1) 全国と本市の平均正答率の比較

校種	教科		国語	算数・数学
	全国	平均正答率	64.7	70.2
小学 6 年生	芦屋市	平均正答率	74.0	81.0
		全国比較	114	115
		評価	良好	極めて良好
		全国	平均正答率	64.6
中学 3 年生	芦屋市	平均正答率	67.0	64.0
		全国比較	104	112
		評価	おおむね良好	良好

※全国比較は全国の平均正答率を100とした場合の本市の数値。評価は115以上を「極めて良好」、105以上115未満を「良好」、95以上105未満を「おおむね良好」、95未満を「課題あり」としている。

#### (2) 各教科の領域別の概況

国語、算数・数学の状況については、本市の小中学生ともにすべて全国正答率を上回っており、評価できる結果となっています。平成31年度から教科に対する調査は、従来のA問題（主に知識を問う問題）、B（主に活用を問う問題）が一体化され、本年度はその2年目として実施されました。

その中で、各教科に記述式問題が一定の割合で導入されています。特に本年度は、「GIGAスクール構想」の推進を踏まえ、情報通信技術（ICT）の活用に関連する問題が出題された点が特徴的でした。

各小中学校の解答状況から、「記述式」の問題に対する正答率が、全国と比較するとかなり高いことがわかりました。特に、目的に合わせて、自分の考えを記述する問題については、正答率が高くなっています。

一方で、「記述式」の問題の中でも、複数の条件に合わせて文章を書く問題や、文章や写真、図や表などから読み取った情報を関連付けながら説明する問題では、正答率が低くなっています。

今後は、特定の教科に限らず、あらゆる学習活動の中で、児童生徒が自ら資料を選択し、それらを関連付けながら自分の考えを表現する場を設定していく必要があります。

【小学校 国語】 ○は比較的高い割合で達成されているもの ▲は課題があると判断されるもの

問題 番号	設問の概要	平均正答率	
		芦屋	全国
2 三	▲1 面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く	47.3%	34.4%
2 四	▲2 面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く	43.9%	29.7%
3 二	▲3 丸山さんの【文章の下書き】の……部分を【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す	63.6%	56.6%
3 三(2)オ	▲4 丸山さんの【文章の下書き】の中の——部オで「すぐに」がくわしくしている言葉として適切なものを選択する	55.5%	43.6%
1 三	○1 津田梅子についての【スピーチ】の練習の□□□□の部分で話す内容として適切なものを選択する	88.4%	81%
2 一	○2 面ファスナーに関する【資料】の文章が、何について、どのように書かれているかの説明として適切なものを選択する	89.1%	77.6%
2 二	○3 面ファスナーに関する【資料】の文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択する	94.1%	87.5%

- ▲1 本設問では、【資料】の中の文章と「面ファスナーの仕組み」とを結び付けて必要な情報を見つけ、ヒントになったこととくっつく仕組みが分かるように書く必要があります。正答率の低さから、目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける力と関連して書くことに課題が見られます。
- ▲2 本設問では、書き手が、面ファスナーが宇宙でも使われていることについて端的にまとめようとしていることを捉え、国際宇宙ステーションの中での使われ方が書かれている部分を中心に読み、必要な情報を見つけて要約する必要があります。正答率の低さから、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する力に課題が見られます。
- ▲3 本設問では、書き手は、「そうじたん当の人などがかたづければよい」と考える人を説得するために、反対する意見を詳しく書き直そうとしています。その書き手の意図を踏まえたうえで、より詳しく反論を書き直すために、【西田さんの話】を用いながら、反対する理由を明確にして書く必要があります。正答率の低さから、目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力に課題が見られます。
- ▲4 本設問では、「すぐに」が詳しくしている言葉として適切なものを選択する必要があります。解答者の約半数に、文の中における修飾と被修飾との関係を捉える力に課題が見られます。
- 1 本設問では、スピーカーの意図を踏まえたうえで、「資料」を使って話す内容をとらえる必要があります。正答率の高さから、目的や意図に応じ、資料を使って話す力に成果が見られます。
- 2 本設問では、「資料」の文章が、何について、どのように書かれているかをとらえる必要があります。正答率の高さから、文章全体の構成をとらえ、内容の中心となる事柄を把握する力に成果が見られます。
- 3 本設問では、複数の情報を比べる場合の言い方である「～は～より・・・」と同じ使い方の文を選択する必要があります。思考にかかわる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う力に成果が見られます。

## 【指導の改善の方向性】

### ア 説明的文章を読むことに特に課題が残ります。

- 分かったことや考えたことをまとめる際には、単一の情報のみに基づくのではなく、文章と図表などの情報を関連付けて検討するなど、**複数の情報を結び付けて考えを形成する活動を多く**取り入れます。
- 中心となる語や文を見つけて**要約する活動**を多く取り入れます。

### イ 自分の考えを主張する文章を書くことに課題が残ります。

- 読み手に伝わるように、**文章全体の構成を工夫したり、理由を明確にしながら自分の考えを書いたりする活動**を多く取り入れます。構成表を作成してから下書きをしたり、下書きを推敲したりする活動を特に大切にします。

【中学校 国語】 ○は比較的高い割合で達成されているもの ▲は課題があると判断されるもの

問題 番号	設問の概要	平均正答率	
		芦屋	全国
1 三	▲1 参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く	61.7%	57.1%
2 一	▲2 意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する	23%	24.8%
3 一	▲3 「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する	47.7%	43.7%
3 二	▲4 「喝采してやる」と「とった」のそれぞれについて、誰の動作なのかを選択する	65.4%	58.7%
3 四	▲5 「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く	21.7%	20.5%
4 三	▲6 「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する	46.8%	40.3%
1 一	○1 話し合いでの司会の発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する	90.6%	89.7%
1 二	○2 話し合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する	92.1%	92.5%

- ▲1 本設問では、話し合いの場面において、誰がどのようなことについて発言するとよいのかを、理由とともに考えることが求められています。正答率の低さから、話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える力と関連して書くことに課題が見られます。
- ▲2 本設問では、文と文との関係、段落相互の関係について、適切な選択肢を選ぶ必要があります。正答率の低さから、書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く力に課題が見られます。
- ▲3 本設問では、文学的文章を読むうえで、叙述に着目しながら語句の意味を理解することが求められています。正答率の低さから、文脈の中における語句の意味を理解する力に課題が見られます。
- ▲4 本設問では、文学的文章を読むうえで、会話と地の文とを読み分けたり、動作とその主体の関係について読み解いたりすることが求められています。正答率の低さから、場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する力に課題が見られます。
- ▲5 本設問では、文学的文章を読むうえで、登場人物相互の関係に対して、文章の一部を引用しながら、自分の考えを端的に記述することがもとめられています。正答率の低さから、文章に現れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ力に課題が見られます。
- ▲6 本設問では、正答率の低さから、相手や場に応じて敬語を適切に使う力に課題が見られます。
- 1 本設問では、司会者の発言内容から、司会者の役割について適切なものを選択する必要があります。正答率の高さから、話し合いの話題や方向を捉える力に成果が見られます。
- 2 本設問では、発言者の質問内容について、その意図を適切に選択する必要があります。正答率の高さから、質問の意図を捉える力に成果が見られます。

## 【指導の改善の方向性】

### ア 文学的文章を読むことに特に課題が残ります。

- これまで読み継がれてきた近代以降の代表的な作家の作品を取り上げた授業を構想します。その際、**場面の展開や登場人物の描写に注意して読む活動**を大切にします。また、**表現や背景に着目して豊かに読み味わう活動**を取り入れることで、難解な文章も読み解く力を鍛えます。
- 文学的文章に表れているものの見方や考え方を捉えて**自分の考えをもつ活動**を積極的に取り入れます。

### イ 話し合い活動や、文の推敲に課題が残ります。

- 特に話し合い活動では、司会の役割を大切にし、話し合いが目的に沿って進むよう、**参加者に発言を促したり、参加者の発言を整理したりする活動**を積極的に取り入れます。
- 文の推敲においては、読み手の立場に立って文章を整えることを促します。**伝えたい事柄にふさわしい語句が使われているか、段落相互の関係は適切について検討する活動**を多く取り入れます。

【小学校 算数】○は比較的高い割合で達成されているもの ▲は課題があると判断されるもの

問題 番号	設問の概要	平均正答率	
		芦屋	全国
2 (3)	▲1 二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く	65%	46%
3 (4)	▲2 帯グラフから、割合の違いが一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く	66.8%	52%
4 (3)	▲3 30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く	67.6%	51.5%
1 (2)	○1 500mを歩くのに7分間かかることを基に、1000mを歩くのにかかる時間を書く	92.9%	86.7%
1 (4)	○2 午後1時35分から50分後の時刻を書く	92.7%	89.2%
1 (5)	○3 分速540mのバスが2700mを進むのにかかる時間を求める式を書く	90.5%	85.1%
3 (1)	○4 6年生の本の貸し出し冊数を、棒グラフから読み取って選ぶ	96.9%	95.8%
3 (2)	○5 学年ごとの本の貸し出し冊数について、棒グラフから分かることを選ぶ	92.7%	90.7%
4 (1)	○6 余りのある除法の商と余りを基に、23個のボールを6個ずつ箱に入れていくときに必要な箱の数を書く	90.7%	83%

- ▲1 本設問では、複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを式や言葉を用いて記述する必要があります。正答率の低さから、図形の内積について、図形を構成する要素に着目して、求め方を筋道だてて説明する力に課題が見られます。
- ▲2 本設問では、帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を言葉と数を用いて記述する必要があります。正答率の低さから、複数のデータについて、全体と部分、部分と部分の関係を調べ、データの特徴や傾向を捉える力に課題が見られます。
- ▲3 本設問では、小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を言葉や数を用いて記述する必要があります。正答率の低さから、商が1より小さい場合の除法について、商の意味を考える力に課題が見られます。
- 1 本設問では、速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する必要があります。正答率の高さから、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、それらの関係を用いる力に成果が見られます。
- 2 本設問では、条件に合う時刻を求める必要があります。正答率の高さから、開始時刻と終了時刻、所要時間の関係を捉える力に成果が見られます。
- 3 本設問では、速さと道のりを基に、時間を求める式に表す必要があります。正答率の高さから、速さ、道のり、時間について、数量の関係を捉える力に成果が見られます。
- 4 本設問では、棒グラフから、数量を読み取る必要があります。正答率の高さから、データの特徴や傾向を読み取る力に成果が見られます。
- 5 本設問では、棒グラフから、項目間の関係を読み取る必要があります。正答率の高さから、最

大値や最小値を捉えたり，集団のもつ全体的な特徴を読み取ったりする力に成果が見られます。

- 6 本設問では，示された除法の結果について，日常生活の場面に即して判断する必要があります。正答率の高さから，商をそのまま答えとできない場合，日常生活の場面に即してより適切な答えを考える力に成果が見られます。

**【指導の改善の方向性】**

**ア 見通しを持ち，筋道立てて考え，その考え方や解決方法を説明することに課題が残ります。**

- 問題を解決するための自分の考え方や解決方法を記述するだけでなく，**他者の考え方や解決方法を解釈したり，ある場面の解決方法を基に，別の場面の解決方法を考えたりする活動**においても**その記述**を求めるようにします。

**イ 身の回りの事象について，統計的に問題を解決することに課題が残ります。**

- データを集めて分類整理する活動，目的に応じて，観点を決めてグラフや表に表す活動，データの特徴や傾向をつかみ，問題に対する結論をまとめる活動を大切にします。



【中学校 数学】 ○は比較的高い割合で達成されているもの ▲は課題があると判断されるもの

問題 番号	設問の概要	平均正答率	
		芦屋	全国
4	▲1 経過した時間と影の長さの関係を、「…は、…の関数である」という形で表現する	52.4%	48%
6 (3)	▲2 四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する	37.3%	30.3%
7 (2)	▲3 与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する	34.9%	27.7%
8 (2)	▲4 2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いること的前提となっている考えを選ぶ	51.3%	36.8%
8 (3)	▲5 「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	19.2%	11.1%
9 (1)	▲6 四角形 ABCD が平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する	49.3%	44.3%
9 (3)	▲7 $\angle ARG$ や $\angle ASG$ の大きさについていつでもいえることを書く	40%	28.8%
6 (1)	○1 四角で囲んだ4つの数が12, 13, 17, 18のとき、それらの和が4の倍数になるかどうかを確かめる式を書く	89.5%	83.9%
7 (1)	○2 与えられた表やグラフから、砂の重さが75gのときに、砂が落ちるまでの時間が、36.0秒であったことを表す点を求める	94.5%	93.5%
8 (1)	○3 気温差が9℃以上12℃未満の階級の度数を書く	87.1%	83%

- ▲1 本設問では、正答率の低さから、関数の意味を理解することに課題が見られます。
- ▲2 本設問では、数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明する必要があります。正答率の低さから、数に関する事象を考察する場面において、見出した事実を説明する力に課題が見られます。
- ▲3 本設問では、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する必要があります。正答率の低さから、事象における数量の関係を見だし考察する場面において、問題解決の方法について説明する力に課題が見られます。
- ▲4 本設問では、相対度数の必要性と意味を理解することに課題が見られます。
- ▲5 本設問では、データの傾向を的確にとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する必要があります。正答率の低さから、日常生活や社会の事象を考察する場面において、ある事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明する力に課題が見られます。
- ▲6 本設問では、平行四辺形にたるときの条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの意味を説明する必要があります。正答率の低さから、図形についての考察場面において、ある事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明する力に課題が見られます。
- ▲7 本設問では、正答率の低さから、ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現する力に課題が見られます。
- 1 本設問では、正答率の高さから、問題場面における考察の対象を明確にとらえる力に成果が見られます。
- 2 本設問では、正答率の高さから、与えられた表やグラフから、必要な情報を適切読み取る力に

成果が見られます。

- 3 本設問では、正答率の高さから、ヒストグラムからある階級の度数を読み取る力に成果が見られます。

### 【指導の改善の方向性】

#### ア 見いだした事柄や事実を説明することに課題が残ります。

- 数量や図形などの考察対象や問題場面について、**成り立つと予想される事柄や事実を見いだす活動**や、それを的確にとらえ直し、**前提とそれによって説明される結論の両方を数学的に表現する活動**を大切にします。

#### イ 事柄を調べる方法や手順を説明することに課題が残ります。

- 他者と協働的に問題を解決したり、問題解決の過程で自らを振り返ったりする上で、**方法や手順を的確に記述したり伝え合ったりする活動**を取り入れていきます。その際、「用いるもの（表・式・グラフ）」を明確にしたうえで、その「**用い方**」の2つの事項を明らかにすることを大切にします。

#### ウ 事柄が成り立つ理由を説明することに課題が残ります。

- ある事柄が成り立つ理由を数学的に説明する際には、**説明する対象となる成り立つ事柄を明確にしたうえで、その根拠を指摘する活動**を大切にします。その際、「○○であるから、▲▲である。」のような形で、「**根拠（○○）**」と、「**成り立つ事柄（▲▲）**」の両方を記述することを徹底します。

## 5 教科の学習に対する子どもの意識の変化

設 問	教 科	小学校				中学校			
		H31 (R1)		R3		H31 (R1)		R3	
		芦屋	全国	芦屋	全国	芦屋	全国	芦屋	全国
勉強が好き (どちらかというが好き)	国語	70.3	64.2	63.2	58.4	56.9	61.7	65.5	60.8
	算数・数学	72.4	68.6	70.6	67.8	54.7	57.9	54.1	59.1
	英語			64.3	64.8	52.4	56.0	59.2	56.7
勉強は大切 (どちらかというと大切)	国語	93.5	93.0	92.7	93.2	90.3	91.0	92.0	91.6
	算数・数学	94.0	93.7	94.2	93.8	81.8	84.2	80.2	84.1
授業はよくわかる (どちらかというわかる)	国語	86.9	84.9	87.4	84.2	75.9	77.5	87.4	80.1
	算数・数学	84.9	83.5	88.3	84.6	76.1	73.9	71.2	74.6
授業で学習したことは将来、役に立つ (どちらかといえば、役に立つ)	国語	91.2	91.2	91.1	91.8	87.0	88.0	86.5	88.7
	算数・数学	91.5	92.5	90.7	92.6	72.4	76.2	62.2	74.6

※1

※2

※3

小学校においては、「勉強が好き」と答えた児童の割合が、市においても全国においても減少しています(※1)。特に、市においては**国語が-7.1%**と、大きく減少しました。一方で、「授業がよくわかる」と回答した児童は、全国では割合が減少していますが、市では、**国語で0.5%**、**算数3.4%**と増加しています(※2)。

中学校では、**国語**において、肯定的な回答をした生徒の割合が増えています(※3)。特に、「**国語の勉強が好き**」と回答した生徒が**8.6%**、「**国語の勉強はよくわかる**」と回答した生徒が**11.5%**と、それぞれ大きく増加しています。また、**英語**においても、「**英語の勉強が好き**」と回答した生徒が**6.8%**と、大きく増加しています。一方、**数学**では、すべての質問項目において、肯定的な回答をした生徒の割合が減っています。

**数学**の学力調査の結果は「良好」であり、全国に比べ平均正答率を大きく上回ることから、数学に向かう生徒の意識をさらに向上させていくことが今後の焦点となります。

### 【指導の改善の方向性】

ア 教科に関する調査で良好な結果を残しながらも、「勉強が好き」と感じる割合が、H31年度よりも低下しています。学習に向かう動機づけや、学習と生活を結びつけ実感を伴った理解を生む授業展開を各教科で目指します。

イ これまで、「分かる」授業を展開するために、授業の「内容」と「目標」を明確にした授業づくりについて、小・中合同授業研究会等を通して、研修を深めてきました。今回の調査で、教科に関する学習が、「よくわかる」と答えた児童生徒の割合が全国よりも高く、またH31年度の芦屋市よりも向上していることから、その成果が表れてきていると考えています。

6 芦屋市における家庭での学習状況（※空欄は、H31年度には、調査がなかったもの）

設 問	小学校			中学校		
	H31 (R1)	R3		H31 (R1)	R3	
	芦屋	芦屋	全国	芦屋	芦屋	全国
家で自分で計画を立てて勉強している。 （どちらかといえばしている。）	73.9	75.9	74	45	65.7	63.5
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり3時間以上、勉強をする。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む。）	37.1	38.9	11.6	14.4	19.7	12.3
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたり4時間以上、勉強をする。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む。）		33	8.6		17	10.2
学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっている。		64.3	39.8		78.6	59.2

太線四角枠で示しているように、芦屋市においては、全国よりも**家庭学習の時間が充実**していることがわかります。

特に「**家で自分で計画を立てて勉強している**」については、小学校・中学校ともにH31年度よりも**増加**し、また全国比においても数値が高い結果となっています。特に中学校では、H31年度から**20%も増加**し、**7割近くの生徒**が計画的に学習しているという実感を持っていることがわかります。

また、家庭学習にあてる時間が長い児童生徒の割合は、全国よりもかなり高く、**6割以上**の児童生徒が、学習塾など、学校以外にも学習する場を持っていることがわかります。

**【指導の改善の方向性】**

昨年度の芦屋市の児童生徒は、臨時休業や分散登校の期間中に、在宅での自主学習を経験しました。保護者や教師が傍らで見守っていない状況の中、一人で学習した経験が、「計画的に勉強している」という児童生徒の実感につながったと考えています。コロナ禍において家庭での学習に対する意識の変化が児童生徒の中にも起きたと考えられます。今後も学校と家庭の両方で、主体的に学ぶ意欲をさらに高める取組が大切であると考えます。

7 「自分自身に関すること」、「人とのかかわり」、「集団や社会とのかかわり」に関する意識の変化（※空欄は、H31年度には、調査がなかったもの）

設 問		小学校			中学校		
		H31 (R1)	R3		H31 (R1)	R3	
		芦屋	芦屋	全国	芦屋	芦屋	全国
自分にはよいところがあると思う。 (どちらかといえばあると思う。)	▲	78.6	78.6	76.9	74.3	76.2	76.2
将来の夢や目標を持っている。 (どちらかというを持っている。)	▲	83.9	80	80.3	69.1	60.9	68.6
自分でやると決めたことは、やり遂げている。 (どちらかというやり遂げている。)	▲		83.7	84.3		79	84.2
難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している。 (どちらかという挑戦している。)	▲	78.8	70.3	70.9	64.7	65.3	65.9
人が困っている時は、進んで助けている。 (どちらかという助けている。)			85.2	88.7		86.3	88.5
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。 (どちらかというと思う。)	○	96.1	96.3	96.8	93.8	95.8	95.9
人の役に立つ人間になりたいと思う。 (どちらかというと思う。)	○	94.6	94.1	95.5	94.3	95.2	95
学校に行くのは楽しいと思う。 (どちらかというと思う。)	※	86	80.9	83.4	83	78.8	81.1
自分の思っていることや感じていることを きちんと言葉で表すことができる。 (どちらかというところまでできる。)	▲		73.8	70.3		71.8	75.2
自分と違う意見について考えるのは楽しい。 (どちらかという楽しい。)	▲		70.5	70.1		77.8	74.7
友達と協力するのは楽しい。 (どちらかという楽しい。)	○		95.1	93.9		94.5	93.3

自己肯定感や、チャレンジ精神、自己実現性など主に「自分自身に関すること」として問われている質問項目は、「▲」で示しているように、市としてもまた全国においても肯定的な回答をした児童生徒の割合が少ないです。

特に太枠で囲んだ「将来の夢や目標を持っている（中学校）」や、「難しいことでも、失敗を恐れな

い

で挑戦している（小学校）」については、それぞれ8歳以上と、H31年度よりも大幅に減少し、また全国比においても数値が低い結果となっています。

一方で、いじめを許さない心や、協調性について問われた質問項目では、「○」で示しているように、いずれも90歳を超えるなど肯定的な回答をした児童生徒の割合が多く、特に中学校においては増加傾向にあります。

「学校に行くのは楽しいと思う」という質問項目については、「※」で示しているように、小学校においても中学校においても、H31年度よりも割合が減少し、また全国比においても数値が低い結果となっています。

## 【指導の改善の方向性】

- ア 他者との協調性や、協働性、いじめを否定する心について肯定的な回答をする児童生徒の割合が高いことから、良好な人間関係が学校内にて育まれていると考えています。ペア学習やグループ学習など、友達と関わりながら学ぶ授業スタイルを多く取り入れたことによる効果だと考えています。
- イ 自己肯定感や、チャレンジ精神、自己実現性について肯定的な回答をする児童生徒の割合が減少したことについては、コロナ禍における学校への影響が懸念されます。従来、子どもの自己肯定感や、チャレンジ精神、自己実現性は、「行事」を含む特別活動が機会となって育まれてきました。しかし、昨年度は、感染防止の観点から規模を縮小もしくは中止せざるを得ませんでした。これらは、「学校に行くのは楽しいと思う」に対する肯定的な回答割合が減少したことにもつながっていると考えています。授業において一人ひとりの表現の機会を増やしていくことや、学級でのイベントづくりなど、コロナ禍における特別活動の形態についても模索しながら、子ども一人ひとりが生き生きと学べる学校づくりをめざしていきます。

## 8 児童生徒の家庭での読書実態（※空欄は、H31年度には、調査がなかったもの）

設 問	小学校			中学校		
	H31 (R1)	R3		H31 (R1)	R3	
	芦屋	芦屋	全国	芦屋	芦屋	全国
学校の授業時間以外に読書をする。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)		80.7	76		55.5	62.6

小学校では、読書をする割合が **80.7** ㊦と、読書をする児童の割合が8割を超えており、全国と比べても **4.7** ㊦高い数値となっています。

一方、中学校では、**-7.1** ㊦全国よりも低く、読書をしている割合も **55.5** ㊦と、市内の約半数の生徒が学校以外で本に触れることなく生活していることが分かります。

## 【指導の改善の方向性】

読書は、知識や教養を得るだけでなく、語彙力や文章力といった発展的な力を育むうえでも効果があると言われています。また、読書には、ストレスを軽減するという効果もあるため、情緒を安定させるうえでも有効です。特に中学校では、文学作品の読み取りにおいて課題があることもわかっているため、授業の中でも本に触れる機会を増やす取り組みをすすめます。

また、小学生のうちから読書習慣が身につくように、様々な機会をとらえて本を読む時間を設定していきます。

9 ICT 機器の利用状況（※空欄は、H31 年度には、調査がなかったもの）

設 問	小学校			中学校		
	H31 (R1)	R3		H31 (R1)	R3	
	芦屋	芦屋	全国	芦屋	芦屋	全国
小学校5年生までに（中学校1，2年生のときに）受けた授業で、コンピュータなどのICTを週1回以上使用した。	20.8	45.5	40.1	29.7	35.6	33.4
学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の児童（生徒）と意見を交換したり調べたりするのに、週1回以上使用している。		46	39		45.9	34.8
学校の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。どちらかというと思う。		91.5	94.5		87.4	93.2

小学校においても、中学校においても、ICT機器を利用した授業を週に1回以上利用した割合がH31年度よりも**大幅に増加**し、また全国比においても**数値が高い**結果となっています。また、ICT機器を利用しながら**意見交換をしたり調べたりする学習**も、芦屋市においては、**半数弱**の児童生徒が週1回以上利用しているという回答をし、これは全国と比較しても**高い数値**であることがわかります。協働学習や調べ学習においても、ICT機器の利用が進んできていることがわかります。

【指導の改善の方向性】

- ア 「GIGA スクール構想」の推進を踏まえ、情報通信技術（ICT）の活用が進んできていることが、調査結果からわかります。H31年度よりも割合が増加し、全国と比較しても数値が高いことから、芦屋市の推進状況は「良好」であると考えます。一方で、週1回以上の利用が、5割に満たないという市の現状を受け、今後さらに利活用できるように進めていきます。タブレットを活用した授業方法の開発を行うと同時に、市内の研修を積極的に行って、その方法を共有していきます。
- イ 情報通信技術（ICT）の活用を進めると同時に、その特徴について児童生徒が理解できるようにしていきます。調べ学習の中でも、「本」を利用した調べ方と、「インターネット」を利用した調べ方では、調べられる内容や、量、調べる速さに違いがでることなどを児童生徒が理解し、「目的」に応じた使い方ができるように指導します。

10 新型コロナウイルスによる休校期間中の子どもの生活（※空欄は、H31年度には、調査がなかったもの）

設 問	小学校			中学校		
	H31 (R1)	R3		H31 (R1)	R3	
	芦屋	芦屋	全国	芦屋	芦屋	全国
新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じた（どちらかというと感じた）		43.7	55.2		53.9	62.8
新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができた（どちらかというのできた）		67.5	64.6		34.8	37.6
新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送った（どちらかというを送った）		61.5	63.1		49.8	48.4

「勉強について不安を感じた」の質問については、昨年度の休校期間中に、多くの児童生徒が「不安」を感じていたことがわかります。特に中学生は、小学生よりも不安を感じていた割合が高いです。

「計画的に学習を続けることができた」の質問については、**小学生で7割弱、中学生では3割程度**しか「できた」と回答しておらず、**いずれも低い結果**となっています。

また、「規則正しい生活をおくった」の質問についても同様に、「できた」と回答した割合が**低い結果**となっています。

**【指導の改善の方向性】**

ア 今回の調査の結果から、児童生徒にとって生活と学習の中心である「学校」の休校によって、多くの児童生徒が不安を感じたり、学習に行き詰まったりしたことがわかります。「学校園における新型コロナウイルス感染症対策ポイントマニュアル」を状況に応じながら改訂し、感染症対策を十分に講じながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、ICT機器を効果的に利活用した教育活動を展開していきます。

イ 変異株の出現による感染の急拡大が起こるなど、非常事態においては、学校が休校となることも想定し、オンラインによる在宅学習に対応するシステムの構築を行います。また、このシステムの構築によって、基礎疾患を持っている児童生徒や、新型コロナウイルス感染への不安から登校しにくい児童生徒が在宅でも学習できるようにします。



1 1 児童生徒の生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査結果（全項目）

No.	質問事項	区分	R3 小学校	R3 中学校
1	朝食を毎日食べている。どちらかという食べている。	芦屋市	94.2	92.6
		全国	94.9	92.8
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ている。どちらかという寝ている。	芦屋市	81.4	80.4
		全国	81.2	79.8
3	毎日、同じくらいの時刻に起きている。どちらかという起きている。	芦屋市	87.2	93.1
		全国	90.4	92.7
4	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことをきちんと守っている。だいたい守っている。	芦屋市	67.5	67.2
		全国	70.1	67.9
5	普段（月曜日から金曜日）、テレビゲーム（コンピュータ、携帯式、携帯電話や、スマートフォンを含む）を1日あたり3時間以上する。	芦屋市	16.5	23
		全国	29	32.3
6	自分にはよいところがあると思う。どちらかといえばあると思う。	芦屋市	78.6	76.2
		全国	76.9	76.2
7	将来の夢や目標を持っている。どちらかという持っている。	芦屋市	80	60.9
		全国	80.3	68.6
8	自分でやると決めたことは、やり遂げている。どちらかというやり遂げている。	芦屋市	83.7	79
		全国	84.3	84.2
9	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。どちらかという挑戦している。	芦屋市	70.3	65.3
		全国	70.9	65.9
10	人が困っている時は、進んで助けている。どちらかという助けている。	芦屋市	85.2	86.3
		全国	88.7	88.5
11	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。どちらかというと思う。	芦屋市	96.3	95.8
		全国	96.8	95.9
12	人の役に立つ人間になりたいと思う。どちらかというと思う。	芦屋市	94.1	95.2
		全国	95.5	95
13	学校に行くのは楽しいと思う。どちらかというと思う。	芦屋市	80.9	78.8
		全国	83.4	81.1

No.	質問事項	区分	R3 小学校	R3 中学校
14	自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる。どちらかというところできる。	芦屋市	73.8	71.8
		全国	70.3	75.2
15	自分と違う意見について考えるのは楽しい。どちらかというところ楽しい。	芦屋市	70.5	77.8
		全国	70.1	74.7
16	友達と協力するのは楽しい。どちらかというところ楽しい。	芦屋市	95.1	94.5
		全国	93.9	93.3
17	家で自分で計画を立てて勉強している。どちらかといえばしている。	芦屋市	75.9	65.7
		全国	74	63.5
18	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり3時間以上、勉強をする。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む。）	芦屋市	38.9	19.7
		全国	11.6	12.3
19	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたり4時間以上、勉強をする。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む。）	芦屋市	33	17
		全国	8.6	10.2
20	学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっている。	芦屋市	64.3	78.6
		全国	39.8	59.2
21	学校の授業時間以外に読書をする。（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。）	芦屋市	80.6	55.5
		全国	76	62.5
22	家にはどれぐらいの本がありますか。	芦屋市	別項にてグラフ表記	
		全国		
23	新聞をほぼ毎日読んでいる。	芦屋市	10.7	4.4
		全国	5.1	3.4
24	今住んでいる地域の行事に参加している。どちらかといえば参加している。	芦屋市	39.2	25.6
		全国	58.1	43.7
25	地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。どちらかといえばある。	芦屋市	51.2	38.9
		全国	52.4	43.8
26	小学校5年生までに（中学校1、2年生のときに）受けた授業で、コンピュータなどのICTを週1回以上使用した。	芦屋市	45.5	35.6
		全国	40.1	33.4

No.	質問事項	区分	R3 小学校	R3 中学校
27	学校で、コンピュータなどの ICT 機器を、他の児童（生徒）と意見を交換したり調べたりするのに、週 1 回以上使用している。	芦屋市	46	45.9
		全国	39	34.8
28	学校の中でコンピュータなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思う。どちらかというと思う。	芦屋市	91.5	87.4
		全国	94.5	93.2
29	普段（月曜から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどの ICT 機器を勉強のために、使っていますか	芦屋市	別項にてグラフ表記	
		全国		
30	あなたは家でどれくらい日本語を話しますか	芦屋市	別項にてグラフ表記	
		全国		
31	小学校 5 年生までに（中学校 1，2 年生までに）受けた授業で、学級の友達（生徒）との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて、自分の考えをしっかりと伝えることができた。どちらかと言えばできた。	芦屋市	83.7	83.9
		全国	82.6	83.7
32	小学校 5 年生までに（中学校 1，2 年生のときに）受けた授業では、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した。どちらかといえばそう思う。	芦屋市	65.9	57.4
		全国	63.5	62
33	小学校 5 年生までに（中学校 1，2 年生のときに）受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。どちらかといえば思う。	芦屋市	77.7	79.9
		全国	78.2	81
34	小学校 5 年生までに（中学校 1，2 年生のときに）受けた授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていた。どちらかといえば行っていた。	芦屋市	67.2	57.4
		全国	67.2	59.5
35	小学校 5 年生までに（中学校 1，2 年生のときに）受けた授業は、自分にあつた教え方、教材、学習時間になっていた。どちらかといえば、なっていた。	芦屋市	76.7	70.1
		全国	81.4	74.3
36	友達と話し合う時、友達の話や意見を最後まで聞くことができている。どちらかといえばできている。	芦屋市	93.9	96.8
		全国	95.5	96.5
37	学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。どちらかと言えば、できている。	芦屋市	77.7	78.2
		全国	78.8	77.8

No.	質問事項	区分	R3 小学校	R3 中学校
38	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。どちらかと言えば、できている。	芦屋市	78.3	73
		全国	78.3	74.6
39	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。どちらかといえば取り組んでいる。	芦屋市	62.7	54.6
		全国	73	70.2
40	学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。どちらかといえば決めている。	芦屋市	77.4	76.2
		全国	73.4	73.9
41	学級活動における学級の話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。どちらかというに取り組んでいる。	芦屋市	68.9	67.2
		全国	73.5	69.8
42	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。どちらかといえば取り組んでいる。	芦屋市	82	84.7
		全国	81.1	86.2
43	国語の勉強は好きである。どちらかといえば好きである。	芦屋市	63.2	65.5
		全国	58.4	60.8
44	国語の勉強は大切だと思う。どちらかといえば大切だと思う。	芦屋市	92.7	91
		全国	93.2	91.6
45	国語の授業の内容はよく分かる。どちらかといえば分かる。	芦屋市	87.4	87.4
		全国	84.2	80.1
46	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う。どちらかといえば思う。	芦屋市	91.1	86.5
		全国	91.8	88.7
47	国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり、使ったりしている。どちらかというとしている。	芦屋市	83.6	79.1
		全国	82.2	81.8
48	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり、必要に応じて質問したりしている。どちらかというとしている。	芦屋市	63.4	55.9
		全国	63.8	61.3
49	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係がわかるように（自分の考えが伝わるように根拠を明確にして）書いたり表現を工夫して書いたりしている。どちらかといえばしている。	芦屋市	73.5	74.5
		全国	71.6	74.6
50	国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えを持ったり（内容を解釈して）自分の考えを広げたりしている。	芦屋市	75.8	78.1
		全国	74.3	77
51	今回の国語の問題について、すべての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	芦屋市	87.2	77.1
		全国	81.3	73.7

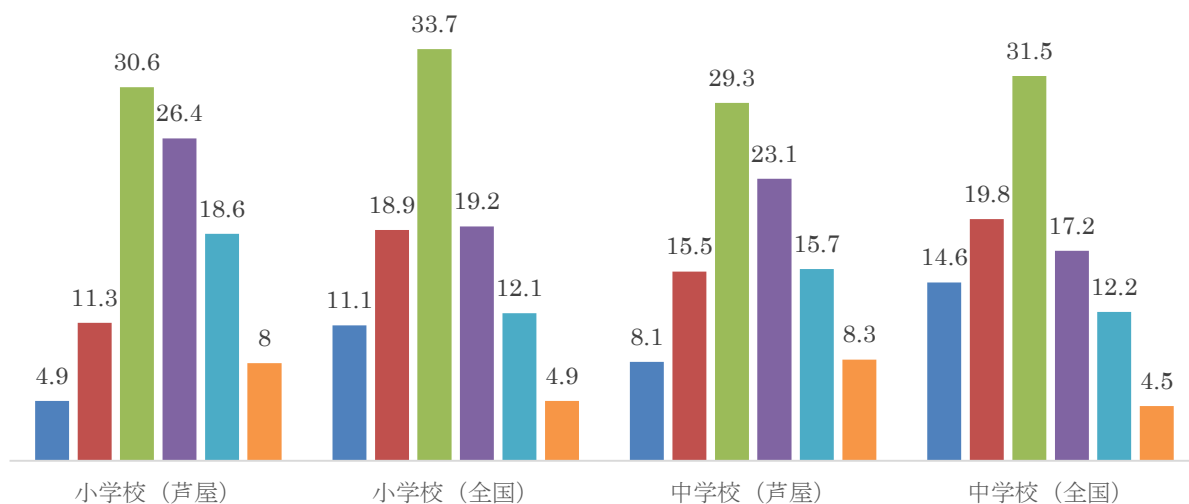
No.	質問事項	区分	R3 小学校	R3 中学校
52	算数（数学）の勉強が好きである。どちらかといえば好きである。	芦屋市	70.6	54.1
		全国	67.8	59.1
53	算数（数学）の勉強は大切だと思う。どちらかといえば大切だと思う。	芦屋市	94.2	80.2
		全国	93.8	84.1
54	算数（数学）の授業の内容がよくわかる。どちらかといえばわかる。	芦屋市	88.3	71.2
		全国	84.6	74.6
55	算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。どちらかといえば役に立つと思う。	芦屋市	90.7	62.2
		全国	92.6	74.6
56	算数（数学）の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える。どちらかといえば考える。	芦屋市	73.1	45.6
		全国	73.9	50.6
57	算数（数学）の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろんな方法を考える。どちらかといえば考える。	芦屋市	84.6	72.2
		全国	82.7	75.8
58	算数（数学）の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。どちらかといえばしている。	芦屋市	87.8	81.3
		全国	89	83.5
59	算数（数学）の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートを書いている。どちらかといえば書いている。	芦屋市	87.9	91.9
		全国	91.9	86.6
60	今回の算数（数学）の問題について、すべての書く問題で最後まで書こうと努力した。	芦屋市	89.1	62.4
		全国	79.9	57.8
61	英語の勉強が好きだ。どちらかと言えば好きだ。	芦屋市	65.3	59.2
		全国	68.3	56.7
62	小学校5年生までに（中学校1，2年生のときに）受けた授業では、（英語で話したり書いたりして、）自分の気持ちや考えを伝えることができましたか。	芦屋市	73.9	67
		全国	74.6	67.7
63	これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にあった。どちらかと言うとあった。	芦屋市	53.6	41
		全国	44.4	34.8

No.	質問事項	区分	R3 小学校	R3 中学校
64	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じた。どちらかというと感じた。	芦屋市	43.7	53.9
		全国	55.2	62.8
65	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができた。どちらかというときできた。	芦屋市	67.5	34.8
		全国	64.6	37.6
66	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送った。どちらかというとき送った。	芦屋市	61.5	49.8
		全国	63.1	48.4
67	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあった時、どのようにしていましたか	芦屋市	別項にてグラフ表記	
		芦屋市		
68	調査問題の回答時間は十分だった（国語）	芦屋市	75.2	77.7
		全国	70.3	75.3
69	調査問題の回答時間は十分だった（算数、数学）	芦屋市	91.2	83.6
		全国	81.7	80.5

12 児童生徒の生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査結果（別項）

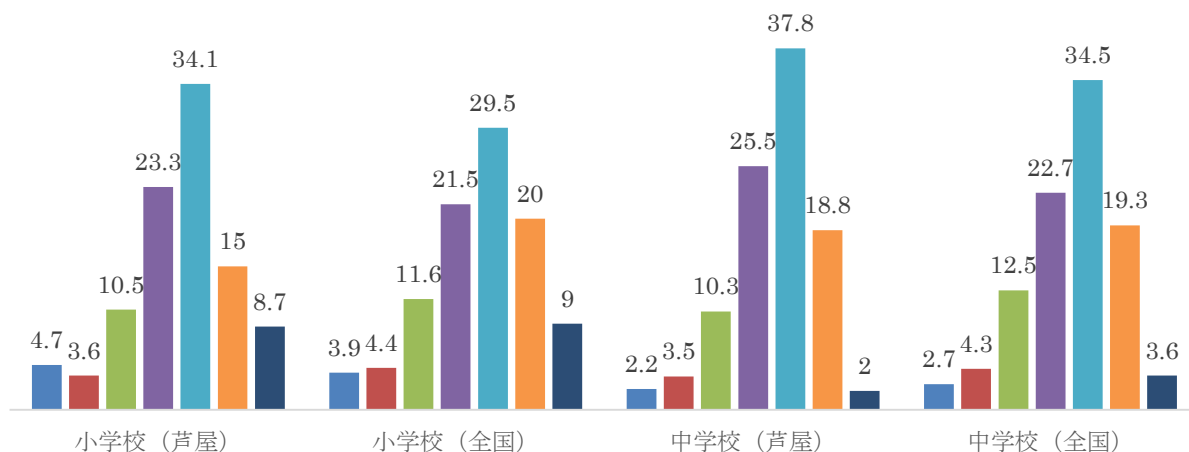
22. 家にはどれぐらいの本がありますか。

■ 0～10冊 ■ 11～25冊 ■ 26～100冊 ■ 101～200 ■ 201～500 ■ 501冊以上



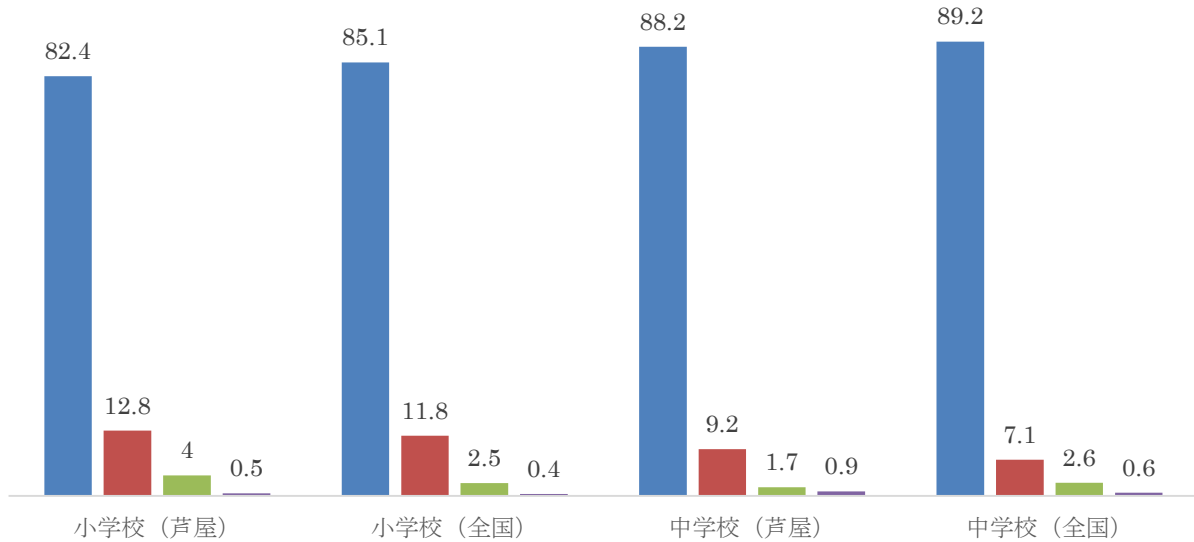
29. 普段（月曜から金曜日），1日当たりどれぐらいの時間，スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、使っていますか

■ 3時間以上 ■ 2時間以上、3時間より少ない ■ 1時間以上、2時間より少ない  
 ■ 30分以上、1時間より少ない ■ 30分より少ない ■ 全く使っていない  
 ■ ICT機器を持っていない



### 30. あなたは、家でどれくらい日本語を話しますか

■いつも話している ■ほとんどいつも話している ■ときどき話す ■全く話さない



### 67. 新型コロナウイルスの感染拡大で、多くの学校が休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていましたか（複数選択）

■先生に聞いた ■友だちに聞いた  
 ■家族に聞いた ■それ以外の人に聞いた  
 ■自分で調べた ■分からないことをそのままにした  
 ■分からないことがなかった ■思い出せない

